



新出屏風絵に寄せて

著者	板橋 秀一
雑誌名	つくばね : 筑波大学図書館報
巻	26
号	1
ページ	1-2
発行年	2000-06-30
URL	http://hdl.handle.net/2241/10556

目次

- I 新出屏風絵に寄せて
- 2 話題になった探幽「日本美術の名品」展開幕
- 5 本学教官寄贈著書紹介
- 6 私の一冊
- 7 平成11年度附属図書館統計
- 8 Ask Us としょかんミニガイド
- 9 とびっくす
- 10 掲示板

新出屏風絵に寄せて

板橋 秀一

附属図書館では芸術学系と共催で、「筑波大学附属図書館所蔵 日本美術の名品」の特別展示を5月22日～6月9日の期間に開催した。これは5月26日～28日に筑波大学で開催される美術史学会に合わせて企画されたが、その出展作品の調査中に新たに屏風絵3双が発見された。それらが狩野探幽、狩野尚信、田村直翁の作になるものと判定されたが、その

大まかな経緯は以下の通りである。

展示会にかねてから出展予定であった狩野山雪筆の掛け軸「歴聖大儒像」6幅を調査するため、本学芸術学系の守屋正彦助教授（近世絵画史研究が専門）が平成11年12月に図書館に来館されたが、その際貴重書庫に保管されていた屏風絵2双の調査を図書館で依頼した。平成12年3月に守屋



狩野探幽筆「野外奏楽，猿曳図」屏風六曲一双

助教授から調査結果の報告があり、それらが狩野探幽および狩野尚信の筆になるもので、いずれもこれまで美術界で紹介されたことのない貴重なものであるとの判定がなされた。この判定にあたっては、日本美術史研究、中でも狩野派の研究を専門とする河野元昭東京大学教授に写真による判断を仰いだ。さらにその後調査を進める過程で田村直翁の屏風絵1双が見つかったため、河野教授に図書館から出張鑑定を依頼した。その結果これら3作品が真作であることがあらためて確認された。著名な画家による屏風絵の発見は近年きわめて稀なことであり、しかもこれまで美術界に紹介されたことのない作品が一挙に3点も新たに発掘されたことは注目すべきことである。

これらの屏風絵はこれまで貴重書庫に保管されてきたが、以前から表具の劣化が激しく、必ずしも良い状態で保存されていたとは言えない。各屏風ともそれを納める木箱がなく、薄紙をかけた程度の簡便な包装状態で置かれていた。これらの屏風絵は筑波大学の旧蔵品ということで、開学以来特に専門家に照会することなく保管されてきたものである。

3双の屏風絵がどのような経緯で附属図書館に收藏されるに至ったかについては、現時点では確定的なことは何も明らかになっていない。前身校

である東京教育大学当時の図書館職員の話によると、昭和18年以前、前身校の東京文理科大学の図書館に保管されていたものと思われる。それ以前には学長室に飾られていたともいわれているが、伝聞の域を出ない。江戸期の儒学者林羅山が狩野山雪に画かせた「歴聖大儒像」が古くから本学に伝えられていることから、湯島聖堂の学舎を受け継いだ本学の前身校である師範学校以来の收藏品とも考えられる。本屏風絵が画かれた時代および林羅山と狩野探幽との関連から考えると、昌平黉伝来の資料の可能性もある。收藏の経緯については専門家による今後の調査を待ちたい。

本学は明治5年の師範学校以来、東京師範学校、高等師範学校、東京高等師範学校、東京文理科大学、東京教育大学を経て筑波大学に至っているが、120余年の長きに渡り幾多の変遷を経て良くぞ保管されてきたという感がある。

江戸幕府は武士の教養の第一として儒学を奨励したが、その推進に力のあった林羅山、彼と親交のあった狩野探幽、今回判明した探幽・尚信による儒教的色彩の濃い屏風絵等のつながりを考えると、専門外の筆者でも気になることが少なくない。専門家にとっては興味の尽きない対象であろう。

(いたばし・しゅういち 附属図書館長)

話題になった探幽 「日本美術の名品」展閉幕

筑波大学芸術学系と附属図書館の共催による「日本美術の名品」と題する展示会が5月22日から6月9日まで開催され、学内はもとより近県や遠くは北海道、鹿児島県など全国各地から約4,300人もの来場者がありました。

この展示会は、狩野探幽・尚信、田村直翁の筆になる屏風の発見という劇的な出来事により、当初の企画から開催規模も内容も大きく様変わりし、関係者を奔走させることとなりましたが、多くの方々のご協力とご支援により好評のうちに3週間の会期を閉じることができました。

以下、展示会等の様子を報告しますが、展示された資料は筑波大学電子図書館 (<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/>) にて詳細な画像を提供していますので併せてご覧ください。

特設会場にて発表を行う北原学長、板橋館長ほか記者発表は4月20日に行われ、北原保雄学長らが、本学の前身である東京教育大学以前から保管されていた狩野探幽の屏風等を発見した経緯について発表し、全国の主要各紙に大きく報道されました。その後、展示会に向けてワーキンググルー